

AHW018-P05

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

## 奈良盆地およびその周辺河川の水質マップから見た水質形成の特徴

### The characteristics of the water formation seen from water quality map of Nara basin and the circumference river

藤井 智康<sup>1\*</sup>, 中野孝教<sup>2</sup>, 斉藤 有<sup>2</sup>, 大鷲 勝<sup>1</sup>, 石村将太<sup>1</sup>, 山本貴能<sup>1</sup>

Tomoyasu Fujii<sup>1\*</sup>, Takanori Nakano<sup>2</sup>, Yu Saitoh<sup>2</sup>, Masaru Owashi<sup>1</sup>, Shota Ishimura<sup>1</sup>, Takayoshi Yamamoto<sup>1</sup>

<sup>1</sup>奈良教育大学, <sup>2</sup>総合地球環境学研究所

<sup>1</sup>Nara University of Education, <sup>2</sup>RIHN

奈良県内には大和川水系、淀川水系、紀ノ川水系、新宮川水系の4つの水系がある。奈良県中部から北部の大和川水系および紀ノ川水系の本川及び支川の中から50地点を選定し、奈良盆地およびその周辺河川の水質形成について、水-地質、水-生物などの環境要素に関連し、水質調査を実施した。分析項目は、主要陽イオンおよび陰イオンおよび河川水および河床堆積物のストロンチウム同位体である。これらの結果より、水質マップを作成し、水質形成のプロセスやその特徴について明らかにした。その結果、(1)奈良盆地南部の大和川水系および奈良県内の紀ノ川水系の河川も最上流部では、総イオン量は低く、本来の河川水質組成を示しているが、下流に向かうにつれ、濃度が高くなり、標高と総イオン量の間には負の相関を示す。(2)奈良盆地南部の大和川水系の河川と奈良県の紀ノ川水系の河川の間には明確な水質形成の違いは見られなかったが、 $\text{Ca}^{2+}$ 、 $\text{Mg}^{2+}$ 濃度に地域差が見られた。この地域は、紀ノ川水系本川である吉野川にある中央構造線を境に地質がはっきりと分かれており、地域的な地質の違いが河川水質に影響を及ぼしていると考えられる。

キーワード:水質形成,水質マップ

Keywords: water formation, water quality map